

経済・金融 フラッシュ

7月日銀決定会合:

2ヶ月連続での上方修正「持ち直している」

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

1. 現状判断:2ヶ月連続での上方修正「持ち直している」

日銀は 11-12 日に金融政策決定会合を開き政策金利である無担保コール翌日物金利の誘導目標を 0-0.1%程度に据え置き(全員一致)、総額 40 兆円の基金創設による各種金融資産買い入れにも変更はなかった。

景気の現状は、「震災による供給面の制約が和らぐ中で、持ち直している」とし、先月の「生産面を中心に下押し圧力が続いているが、持ち直しの動きもみられる」から上方修正した。上方修正は 2 ヶ月連続となる。

日銀 景気判断・見直し

	現状
2011年7月	震災による供給面の制約が和らぐ中で、持ち直している
2011年6月	震災の影響により、生産面を中心に下押し圧力が続いているが、持ち直しの動きもみられている
2011年5月	(据え置き)
2010年4月	震災の影響により、生産面を中心に下押し圧力の強い状態にある
2010年3月	改善テンポの鈍化した状態から脱しつつある
2010年2月	改善テンポの鈍化した状態から徐々に脱しつつある
2011年1月	(据え置き)
2010年12月	(据え置き)
2010年11月	緩やかに回復しつつあるものの改善の動きに一服感がみられる

先行きは、供給制約の和らぎによって生産が回復に向かっていくにつれ、好調な海外経済を背景とした輸出の増加や復興需要の顕在化などから、「2011 年度後半以降、緩やかな回復経路に復していくと考えられる」との先月の見方を維持している。

7月1日発表の6月日銀短観では景況感が足元は大きく悪化したが、サプライチェーン復旧に伴い先行きは改善が示された。日銀は今年度後半にかけて、景気が緩やかな回復基調に戻るとの見方を強めていると思われる。

ただ、電力リスク、海外経済・金融などの不透明感は逆に高まっており、現状の景気判断を進めても、先行きの景気の下振れリスクを注視する姿勢は変えていない。日銀は引き続き下振れリスクを意識した政策運営を迫られている。

2. 展望レポート中間見直し:2011 年度成長率を下方修正

今回 4 月の展望レポートの見直し作業が行なわれた。

日本経済が今年度後半以降に「緩やかな回復経路に復していく」とする景気シナリオを維持したが、震災直後の落ち込みが大きかったことが影響して幾分下振れるとし、2011年度の実質経済成長率見直しを、

現行の0.6%から0.4%に下方修正した。2012年は据え置きとなった。

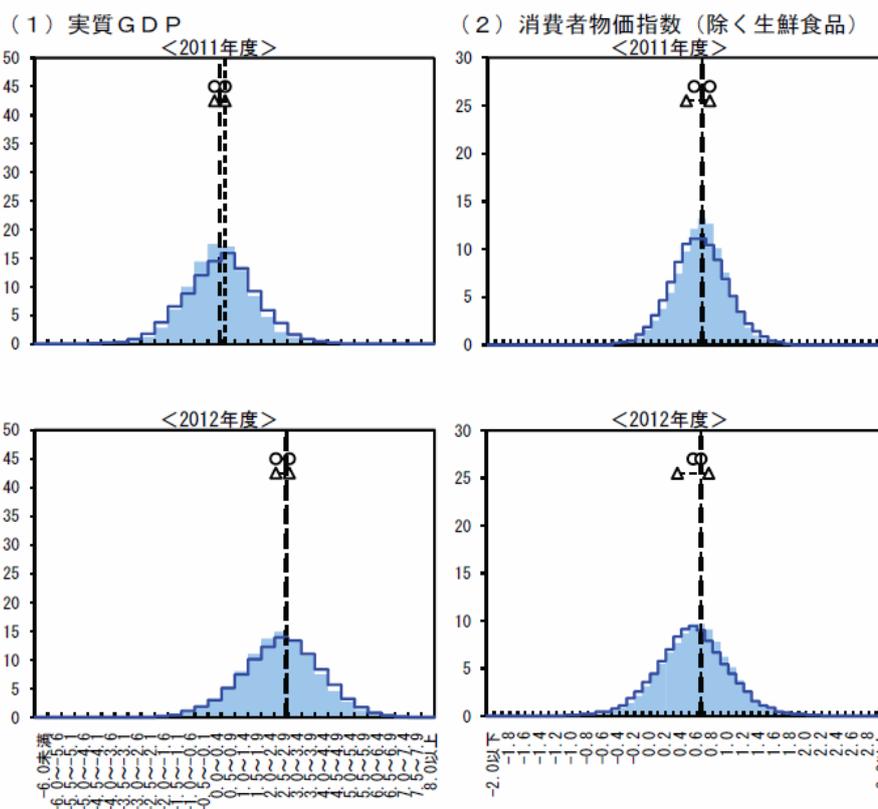
前回4月の展望レポートは震災の影響が経済統計で発表される前のものだった。当研究所の最新の経済見通しは2011年度0.3%、2012年度2.7%となっており、日銀の見通しと大きな違いはない。

消費者物価は2011年度と2012年度ともに0.7%となっている(前回同様)。当研究所も2011、12年度ともに0.7%と予想しており、ほぼ今回の日銀の予想は民間に近い。

▽2011～2012年度の政策委員の大勢見通し

——対前年度比、%。なお、< >内は政策委員見通しの中央値。

	実質GDP	国内企業物価指数	消費者物価指数 (除く生鮮食品)
2011年度	+0.2~+0.6 <+0.4>	+2.2~+2.5 <+2.4>	+0.6~+0.8 <+0.7>
4月時点の見通し	+0.5~+0.9 <+0.6>	+1.6~+2.6 <+2.2>	+0.5~+0.8 <+0.7>
2012年度	+2.5~+3.0 <+2.9>	+0.5~+0.9 <+0.6>	+0.6~+0.7 <+0.7>
4月時点の見通し	+2.7~+3.0 <+2.9>	+0.3~+0.7 <+0.6>	+0.5~+0.7 <+0.7>



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。